

「初秋の八島湿原 (9)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

湿原を訪れたのは、8月もに近い晴れた日だった。この日の朝は、すでに10℃近くまで気温が下がったそう。昆虫にとっては、活動が厳しい気温だろう。



しかし、シシウドの花の上に、緑色の幼虫がいた。どうやら「キアゲハ」の幼虫のようだ。なぜ、花の上にいるのだろうか？キアゲハの幼虫はセリ科の植物を好む。高原に多いシシウドの葉も好んで食べるが、実は、葉だけでなく花やつぼみまで食べるのだ。キアゲハはサナギで越冬する。この幼虫が成虫になって、その子(サナギ)が越冬するのだろう。



キアゲハの成虫も飛んでいた。ヒラヒラと舞うチョウを撮影するのは、非常に難しい。



これが、キアゲハの幼虫が好むシシウドである。この花の蜜を好む昆虫の一つに「ヒョウモンエダシヤク」(豹紋枝尺)がいる。



ヒョウモンエダシヤクは、チョウのようにかわいい姿だが、実はシヤクガの一種で、幼虫はいわゆる「尺取虫」である。残念ながら、この日は出会えなかった。(写真は北軽井沢で撮影)



木道を30分ほどゆっくり歩くと、小屋が見えてきた。どうやらここが一つの「到達点」のようだ。この小屋はもともとキャンプ場のあった場所だが、現在は休止中でキャンプもできない。何か、離農した北海道の開拓農家のようにも見えた。